

# 自治労・東学ニュース

東京都学校事務職員労働組合（東学） 新宿区西新宿2-8-1 都庁第2本庁舎32階  
(メーデー特集) 2024年5月7日 NO.672

## 5. 1 第95回日比谷メーデー2千8百名の闘う労働組合・市民が結集する

**メーデーの意義** メーデーはアメリカで8時間労働を求めて1886年に始められ、日本では1920年に開始されました。今年で104年目です。歴史と伝統のある「働く者の祭典」です。

**第95回日比谷メーデー** 小雨の降る中、5月1日に日比谷野外音楽堂に2800名の労働者・市民を結集し、開催されました。呼びかけ文には、「24春闘では、大手企業は相次いで満額回答が示していますが、非正規や中小企業で働く労働者は置き去りにされ、物価高騰の中で労働者の実質賃金は下がり続けています。長時間労働が常態化し、低賃金で人件費は抑制され、時間と場所にとらわれない働き方や雇用によらない労働と使用者責任を放棄した偽装請負が横行しています。24春闘を、安心した生活ができる社会を実現する労働者総体の闘いとするためにも、ストライキを背景にした大衆闘争で闘い、メーデーにつなげていくことが大切です」とあります。

**主催者のあいさつ** 国労東京地本委員長の鎌田さんが、連帯のあいさつは都労連委員長の和田さん、実行委員会の黒澤さん。来賓のあいさつは、東京都産業労働局次長の阿部さん、参議議員の福島さんが行いました。

**集会開催後は、デモ行進を** 東学は、民間労組の宣伝カーの後ろに、4者協として梯団を組み、霞が関の官庁街を通り、新橋までデモ行進を行いました。

※**メインスローガン** 働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守ろう！

※**サブスローガン**

★大幅賃上げ実現！ あらゆる解雇を許すな！ 社会保障の充実を！

★ジェンダー平等！ 均等待遇実現！ なくせ貧困・格差・差別、8時間働けば暮らせる社会を！

★震災復興！ 福島原発事故を忘れない！ 原発ゼロ社会の実現を！ 核兵器廃絶！

★反戦平和！ 9条改憲反対！ 大軍拡・増税反対！ 辺野古新基地建設阻止！ 岸田政権は退陣を！

## 5. 3 憲法大集会3万2千名の労働者・労働組合と市民が結集し開催される

日本国憲法は、施行77年。本集会は、2015年の集会から、憲法の改悪を許さず、憲法理念の実現を求めて、多くの労働者・労働組合と市民が結集して開催され、10回目を迎えました。東京臨海防災公園を会場にして開催され、32000名が結集しました。立憲民主党、共産党、れいわ新選組、社民党の幹部が出席しました。「法律を犯しているかも知れない（自民党）裏金議員に憲法の議論をする正当性はあるのか」。メインスローガンは、「武力で平和はつくりえない！とりもどそう憲法いかす政治を」です。

自民党は。令和6年運動方針で「年内の実現」を、岸田首相は「今年秋までの改憲」をねらっています。大規模災害時の国会議員の任期延長といった緊急事態条項が、議論されていますが、憲法を改正しなくても法律の改正で、十分に対応できます。

## 4. 27 連合中央メーデー 2万8千8百名が結集し開催される

4月27日、代々木公園で第95回連合メーデー中央大会が、2万8千8百人の結集で開催されました。岸田首相が来ているせいか、警備が厳重で、手荷物検査でカバンの中まで検査していました。自治労の旗のもと、東学は、代表派遣で参加してきました。

メインスローガンは、「連帯の力で、平和と人権を守り、誰もが安心して暮らせる新たなステージへ！ 被災地の復旧・復興に向けて、みんなで支え合い・助け合おう！」です。

芳野会長は、「働く人の7割がいる中小企業の給料が上がらなければ、みんなで賃上げとは言えない。労務費を含む適切な価格転嫁という当たり前の商習慣を根付かせていきましょう」と訴えました。

来賓の岸田首相は、「6月からは1人4万円の所得税・住民税の減税を行い、物価上昇を上回る所得を必ず実現する。来年以降、持続的な賃上げ定着のカギを握るのは中小企業と地方であり、労務費の価格転嫁を通じた賃上げの取り組みを進め、最低賃金の引き上げも、目標をできる限り早期に達成すべく環境整備を加速する。今後も連合の意見に耳を傾け、より連携し、政策を1つ1つ果敢に丁寧に進めていく」とあいさつしました。

その他、来賓には、武見厚生労働大臣、小池東京都知事が、政党では、泉立憲民主党代表、玉城国民民主党代表が、あいさつをしていました。

## 衆院3補選は立憲民主党が3勝、自民党は不戦敗を含め全敗 投票率は過去最低を記録

衆院島根1区で亀井さんが、東京15区では酒井さんが、長崎3区では山田さんが、それぞれ当選しました。立憲民主党の3勝です。しかし、投票率は3選とも、過去最低でした。

自民党の派閥裏金問題を受けて、「政治とカネ」問題への姿勢が問われていました。旧統一教会との関係問題などでも、疑惑に正面から答えず、その場しのぎの対応を繰り返していました。自民党に対する不信が、高まっていました。

裏金問題や旧統一教会との関係問題にとどまらず、安全保障問題や暮らしに関わる問題でも、岸田政権は、国民への説明を尽くさず、国会での議論も避けて、勝手に決めてしまっていました。少子化対策、マイナンバー保険証、物価高に苦しむ国民と、政治不信は高まっていました。

## 自民党に勝つためには野党共闘しかない

野党は相変わらず、まとまりがありません。岸田政権や自民党の支持率が低下しているのに、野党の支持率が上がっていません。政権批判票の受け皿となるには、野党がまとまる必要があります。野党がバラバラで、共倒れとなれば、自民党がよろこぶだけです。自民党に勝つためには、野党はまとまるしかありません。自民党に愛想を尽かした保守層や無党派層を味方につけることが必要です。野党共闘に否定的な日本維新の会を除き、野党間の選挙協力や候補者調整は、避けて通れません。

古い体質の自民党から、野党へ、何としても政権交代を実現しなければなりません。